

咲き誇れ秋田

日銀秋田支店長の目

秋田市内をドライブしていると、時折、渋滞に遭遇する。一向に進まないで車線を変えて追い越し、渋滞の先頭を見ると、マクドナルドのドライブスルー待ちの行列だった、ということがよくある。新型コロナウイルス感染症の影響はこんなところにも出ている。

マクドナルドといえば、経済を少し知っている人であれば一度は聞いたことがある指標がある。「ビッグマック指数」である。これは、全世界のマクドナルドで販売されている「ビッグマック」の価格を同じ時点で各国別に見たもので、英国のエコノミスト誌で、年2回公表されている。

先日、2021年7月の価格が公表されていた。それによると、日本のビッグマックは399

ビッグマック指数

0円、米国は5・65ドル。この時点の為替レートは1ドル約109円なので、日本の感覚で見ると米国のビッグマックは約621円となる。これにポテトやドリンクを付けると、1千円近くの出費を覚悟する必要がある。数年前、ニューヨークへ旅行に行った私の感覚でも、ビッグマックに限らず、昼食代は10ドル日本円で約1千円)を超えるのは

際立つ日本の物価安

当たり前であった。これは逆にみると面白い。日頃からビッグマックを食べている米国人が日本のマクドナルドに入ったところであろう。

一方、米国は当時2・25ドル、約2・5倍の値上げとなっている。この30年間、日本のビッグマックは、日本国内で生活しているわれわれにとって「あんべく上回っている。

これはビッグマックという商品の一つの例に、厳密ではないものの、日米間の大まかな物価



圈内の人々も、いまだにビッグマックが399円で販売されている、日本の物価水準に驚くであろう。ゆえに、例えば1泊10万円もする都心の高級ホテルに彼らが宿泊できるのも分かる気がするし、そのサービスを日本人が行うことが常態化するのも笑い話ではない気がする。私は前回のコラムで、秋田県の県民所得（1人当たり、18年は、1991年を約2割上回り、過去最高の水準で推移していると皆さんにお伝えした。でも、世界の中での日本、秋田でみると、知らないうちに、アジア諸国をはじめ多くの国々に追い抜かれていく。そんな現状をみると、あんべいと喜んでる場合ではない。次回、こうした現状を踏まえ、私が秋田の課題と想ったことをお伝えしようと思う。（真鍋隆・日本銀行秋田支店長）

〈随時掲載〉